

憶地域

美しい江田川後世に
市民ら外来植物を除去川の中から引き出した外来種の根を運ぶ
宮崎海洋高生ら

宮崎市憶地区の江田川で4日、環境省レッドデータブックの絶滅危惧種に指定されているミズキンバイやコウホネなど外来植物の生育を妨げているとして、南米産のオオササモ、ホテイアオイの除去作業があった。憶地域まちづくり推進委員会(内之倉忠男会長)と山崎エコアップ会(井野嘉幸理事長)が呼び掛け、

住民や宮崎海洋高生ら約120人が参加した。

参加者たちは、熊手や手で水面に出ているホテイアオイの茎を引っ張り、川底の根を掘り出したりする作業に取り組んだ。また、葉の切れ端や根の部分だけでも簡単に繁殖するオオササモは、根が川の中に縦横無尽に張っているため事前に重機を使って除

去しており、4日は根の切れ端などを回収。参加者たちは午前9時から正午ごろまで約3時に渡って汗を流した。

参加した同高3年の中野のぞみさん(17)は「授業で外来種の影響を聞き、力になれた」と話していた。

ばと参加した。きれいな川に戻ったらうれしい」と作業に励んでいた。同推進委員会の菊池嘉穂環境部会長は「トンボやホタルが飛び交う美しい川に戻し、後世に残したい。今後も定期的に活動を続ける」と話していた。

崎日日新聞

2011年(平成23年)6月5日

三股、西小

きれいな大淀川守る
児童、水辺の環境調査

沖水川で水生生物を探す三股小の児童

身近な河川や水について子どもたちに関心を持ってもらおうと、県は都市部と三股町の2小学校の4年生を対象に水環境学習会を開いている。児童らは大淀川の水質の現状を知るとともに、水生生物調査などを通して河川浄化の大切さを学んでいる。

県の本年度の新規事業「大淀川上流域河川浄化推進事業」の一環で、三股小と都城・西小の児童計約190人が3回にわたって学習。初回は、授業で生活排水の河川への影響や浄化の仕組みを学んだ。このうち、三股小4年2組の33人は5月31日、同町の早

馬神社下の沖水川で2回目の学習会となる水辺環境調査に挑戦。都城保健所や町役場職員らの指導を受け、化学的酸素要求量(COD)を測って調べる簡易水質検査を行い、「もぐり」などのきれいさであることを確かめた。この後、川に入り水生生物を調査。捕まえた生物は主にきれいな水にいるカワゲラと少し汚い水に生息するヒラタドロマシであることを確認した。半代大征君(9)は「こんなにたくさんの生物がいてびっくりした。きれいな水と分かったの、これからも川を大切にしていきたい」と話し